

新たな情報通信技術戦略の策定に関する意見

1. 個人／団体の別：個人
2. 氏名／団体名：非公開
3. 連絡先：非公開
4. ご意見：

(2)地域の絆の再生 へ以下のものを入れていただきたい

○医療・福祉領域の現場の声として、患者・受益者の安心・安全が脅かされ、かつ、医師、看護師、介護士などサービス提供者の執務環境の劣悪化という深刻な状況にある状況を回避するため、喫緊の課題として、診療行為・治療行為・福祉実務そのものの生産性向上、負担軽減を果たすため、通信速度がGIGAビット化した赤外線通信技術等を機器に接続し、データの即時活用ができるようなシステム(メーカーや機器の種類、データ量の大小を問わず)を構築して共用化・標準化する。

これにより、医療等の現場で責任者が考えるような組み合わせを行うことが出来るようになり、その結果、患者等に合った活用すべき様々な機器が対象者から取得する診断データを即時に活用できる環境が作れるようになり、①実務現場での活用機器相互間のリアルタイムでの連携作動(心拍数が一定値を越えたら、即座に点滴の量を増やすようにするなど)を可能とする、②医師などによる単一端末での診断装置からくるデータ相互間関係についての目視確認を可能とすることで、治療装置の活用上の確認行為(内視鏡手術を行いながら1つのモニターで心拍数と体温変化とエコー画像を確認するなど)が容易化する(医療現場のコクピット化)、③遠隔リアルタイム治療の実現に向けた取り組みの具現化への第一歩となったり、④医師などによるカルテ作成業務においてデータ取り込みが容易になることでの時間短縮化が図れたり、といったことが可能となる。

(理由)

現在、当戦略の骨子案に記載されている、医療・福祉領域におけるレセプト、オーダーリングシステム等のIT化、カルテ・医療情報等の標準化については、あくまでも患者が病院にかかる際の過去の履歴確認の迅速化に資するものであったり、事務処理(医療・福祉行為のあとの)の間接的な省力化であって、医療・福祉従事者や患者となる国民が求めている安心・安全につながる医療・福祉の現場での実務における真の生産性向上、負担軽減に資する情報通信技術の活用については対応可能な技術的要素が開発されたことにより実現可能となっているが未だ置き去りにされてきている。

よって上記のような提案が現在でもできることとなっていて、かつ、喫緊の課題として取り組むべきであると言えるところ。

これにより、社会問題化している医師・看護師不足などの問題を引き起こす根本原因でもある、患者などへ降りかかる医療リスク(初期動作の遅れによる致死リスク、短時間での処理に追われることにより発生するヒューマンエラーリスク)の回避に資するものとなったり、自身への過剰負担(常に気を抜けば発生しうる医療リスクと向き合う負担、医師を含めた医療・福祉従事者への慢性的な過剰労働感)によるストレスの軽減にもつながったりすることとなることが期待される。

これは、患者の立場、医師の立場双方にとっての放置できない喫緊の課題であると言える

なお、科学技術開発のこれまでの取り組みにおいては、提案にあるような共有化・標準化するシステムを考えずに、それぞれの開発の中で、2つの機器を相互に連動して使えるようにするものは行ってきたが、一点ものの開発に過ぎず、他に広がることはなく、また、この連動のための作り込み費用も開発費で多くの割合を占めることとなってしまうていた。このシステムを国費で構築して共有化・標準化することができれば、後はそのシステムで動くような赤外線通信システムと赤外線ポートを機器側でつけるだけで連動させるための開発費をかけずにすむこととなるので、これから治療機器、診断機器の開発を進めていく上で大変に重要な要素ともなる。

また、この共有化・標準化のシステムを日本の技術の活用で実施できることでもあるため、日本発の国際標準とすることも成長戦略的にも重要となってくるといえる。

以上